

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●理事会	1
●委員会報告	2
●2009年洋書輸入統計〔前編〕	3
●ロンドン・ブックフェア2010	6

理事会

理事会報告 2010年4月15日(木)

1. 総会資料

- ①事務局より決算の報告があり、承認された。本来なら会計監査後の議題であるが、日程の関係で前後となった。(会計監査は4月28日)
- ②総務委員会から2010年度予算案が提出され、承認された。

2. 総会準備

開催日：2010年5月21日(金)

場 所：国際文化会館

内 容：

理事会：15：00～15：30

総 会：15：30～16：20

パネルディスカッション：16：30～17：50

懇親会：18：00～

パネルディスカッション

- ①テーマ：「洋書業界に何が求められているか」
 - ②パネラー：小城社長(丸善)、深田社長(Springer)、市古事務長(慶応大理工メディアセンター)
 - ③進行役：山川理事長
 - ④司会：仲委員長
3. その他
- ①関西懇親パーティー：9月17日(金)に行うこととした。
 - ②事務局から提案のあった各種資料の配付をPDFファイルでメールに添付して送る件は了承した。(総会資料配布から)
 - ③藤井洋書、トムソン・ロイター・プロフェッショナル(Sweet & Maxwell 事業部の2社)から出されていた入会申込を承認した。

事務局からのお知らせ(敬称略)

新入会員

- ・有限会社 藤井洋書 会員代表者：代表取締役 藤井 昭造
住所 〒550-0024 大阪府大阪市西区靱本町1-9-18 うつぼビル
- ・トムソン・ロイター・プロフェッショナル株式会社 Sweet & Maxwell 事業部 会員代表者：山本 彩乃
住所 〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル5F

会員資格変更

株式会社 日本文献出版 会員代表者：代表取締役 齋藤 純生
賛助会員から正会員に変更 (定款第7条を適用)

会員からのお知らせ

丸善株式会社は、3月23日(火)より下記に事務所を移転しましたのでお知らせいたします。

〒140-0002 東京都品川区東品川四丁目13番14号 グラスキューブ品川

電話：03(6367)6053 FAX：03(6367)6163(洋書仕入担当)

最寄り駅は、東京臨海高速鉄道りんかい線の品川シーサイド駅(徒歩1分)か京浜急行の青物横丁駅(徒歩15分)です。受付は13階となります。

第 8 回 ボウリング大会

2010 年 3 月 17 日 (水)

会 場：ロサボウル (池袋)

参加者：17 名 (7 社) 男性 13 名 女性 4 名

競 技：3 G のトータルピン (女性は 20 ピン/ゲームのハンディキャップあり)

上位の成績は下記の通り

順位	氏名 (社名)	総得点	1G	2G	3G
優勝	平野 覚 (ユサコ)	590	197	171	222
準優勝	山中 玄致 (ユサコ)	480	166	172	142
3 位	ロバート・ハビック (UPS)	469	162	160	147
4 位	小向奈保子 (絵本の家)	440	134	102	144
5 位	斉藤 美穂 (絵本の家)	427	115	120	132
6 位	三好 誠 (ユサコ)	408	138	135	135
7 位	植原 英男 (日本出版貿易)	406	135	150	121
8 位	寺尾 雅人 (日本出版貿易)	398	131	133	134
9 位	高橋 直樹 (東京ブックランド)	394	128	125	141
10 位	戸島健太郎 (東京ブックランド)	389	156	131	102



ハイスコア男性／G 平野 覚 (ユサコ) 222

ハイスコア女性／G 小向奈保子 (絵本の家) 147

次回は 2010 年 8 月に開催予定です。

第 135 回 72 会ゴルフコンペ

2010 年 3 月 20 日 (土) 晴れ

会 場：龍ヶ崎カントリー倶楽部 (茨城県)

参加者：20 名 (13 社)

競 技：18 ホール ストロークプレー 新ベリアによる

<成績表>	グロス	ハンデ	ネット
優勝 唐木澤明夫 (東亜ブック)	98	22.8	75.2
2 位 西山幸児 (西山洋書)	93	16.8	76.2
3 位 石渡 昇 (阪急阪神エクスプレス)	92	15.6	76.4
4 位 木原健策 (東京洋書)	91	14.4	76.6
5 位 山川隆司 (ユサコ)	103	25.2	77.8
6 位 鈴木 徹 (ケイラインロジスティクス)	115	37.2	77.8
7 位 仲 光男 (雄松堂書店)	100	21.6	78.4

ベスグロ：木原健策 (東京洋書) 91 (OUT 44 IN 47)

ドラコン：仲 光男 (雄松堂書店) 鶴 三郎 (東亜ブック)
山本明彦 (日新) 鶴 竜次 (東亜ブック)

ニアピン：楠本 忍 (東京ブックランド) 山下志信 (サ
ンメディア) 石渡 昇 (阪急阪神エクスプレス) 椎名
正征 (三友社)



次回は 2010 年 12 月 高根 CC (埼玉県) で開催いたします。

2009年(平成21年)1月～12月の洋書輸入・輸出通関統計(前編)

荒木 亮一

『財務省貿易統計』ホームページから、2009年度の洋書関連商品の輸入・輸出の数値を「国別品別表」、「品別国別表」、「統計品目別表」、また新たに「統計品別推移表 NEW」などのフォーマットで検索した。これらのデータをベースに従来どおり各種一覧表にまとめた。多少コメントを付記しながらご報告させていただくことにする。

因に、昨年ご報告した上記の『貿易統計ホームページ』は比較的簡単にいろいろなデータを入手することができるので大変嬉しい。特に、年を重ねて来ると、毎回先方まで出向かなくてもよいので非常に助かる。昨年まで利用してきた内務省合同庁第4号館、貿易統計室の(COMETs)にも10年ほどお世話になった。今年から、家庭のパソコンで検索できる「ホームページ」、そして更に充実した内容がそこにある。『貿易統計ホームページ』を開くと『対話型検索です。貿易統計の品目は9桁の統計品目番号の集計となっていますので………中略………「輸出統計品目表(輸出の場合)」や「実行関税率表」(輸入の場合)でお調べいただけます。』との説明がある。『実行関税率表』(輸入の場合)をクリックして、第49類の(類注)または、(税率)をクリックすると品目の内容(品目番号)が検索できる。『統計品目情報』から「品別国別表」、「国別品別表」などを選べばよい。ぜひ覗いてみて、参考にされることを期待している。

♥ 概況：1月27日の『報道発表』、『平成21年分貿易統計(速報)の概要』によると、“輸出は自動車、鉄鋼等が減少し、対前年比33.1%の減少となった。また、輸入は原油、液化天然ガス等が減少し、34.9%の減少となった。その結果、差引は2兆8078億円”となった。”という。因に、金額は輸出が54兆1827億円で2年連続の減少、輸入は51兆3749億円で7年ぶりの減少と発表されている。差引は2兆8078億円の出超だが、景気の低迷は明らか、と考える。対米輸出も38.5%の減少で3年連続、輸入も31.5%の減少で2年連続、差引は更に低調で47.5%の減少で3年連続との報告である。EU、アジア、中国方面との取り引きも軒並みのほぼ2年連続の減少で、アジア方面からの輸入は11年ぶりの減少、中国への輸出が11年ぶりの減少、だそうだ。書籍・雑誌類も例にもれず3年連続の減少であるが、減少率は全体像よりは小さく17%に止まっている。

1. 主要品目の輸入通関額について：

(表1-a) 2008/2009年輸入通関統計 (単位 百万円)

分類	品目	08年1月～12月 輸入価格	09年1月～12月 輸入価格	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	242	221	91.3%	0.6%
	辞典および事典	179	74	41.3%	0.2%
	その他のもの(書籍)	26,927	22,920	85.1%	59.5%
	幼児用の絵本及び習字本	3,881	2,798	72.1%	7.3%
	小計(1)	31,229	26,013	83.3%	67.6%
	楽譜・地図／ 海図／地球儀	642	465	72.4%	1.2%
新聞・ 雑誌そ の他の 定期刊 行物	海図／地球儀	1,225	1,055	86.1%	2.7%
	小計(2)	1,867	1,520	81.4%	3.9%
	一週に4回以上 発行するもの	91	6	6.6%	0.0%
	雑誌その他の定期刊行物	13,209	10,956	82.9%	28.5%
合計	小計(3)	13,300	10,962	82.4%	28.5%
	(1) + (3)	44,529	36,975	83.0%	96.1%
合計	(1) + (2) + (3)	46,396	38,495	83.0%	100.0%

♥ 前年比で見ると、「単一シート」、「辞書」などを含む『書籍』類は約17%の減少、『新聞・雑誌』は約18%の減少で、いずれも2年連続で、10年前より低いレベルの結果となった。2年連続の円高だが、これら主要品目の2009年度は、為替差益・損を考慮したネットで、前年比約7%の減少と考えられる。次に比較的安定していた『楽譜』も28%と大幅の減少、『地球儀・地図』も14%の減少と軒並みであった。

♡ 「単一シートのもの」の2009年は、米国が最も多く39%、次点がドイツで22%、3位が中国の20%で計81%を占めた。シンガポールが3%で4位と、以下は一桁台である。

♡ 「辞典及び事典」は急落である。例年は15、6カ国からあった輸入が、2009年は11カ国のみ。中国が最も多く46%、英国が18%、次が米国の17%で合計81%を占めた。シンガポールから6%、ロシアから4%強、韓国から4%弱と少ない。最近の電子辞書には鳥類の鳴き声を音声で再生する機能を備えた機種もあり、印刷物は守勢に立っている。

♡ 「書籍」類は、米国から全体の38%が輸入され、英国から29%、中国から10%で、3カ国からの合計が77%であった。計56カ国から輸入があり、珍しいところでは、バーレーン、カタール、イエメン、サンピエール及びミクロン(仏)、米領ヴァージン諸島、エクアドル(20万円台～50万円台の輸入)などが含まれていた。

【参考：①サンピエール及びミクロン(島)(St. Pierre and Miquelon)、Newfoundland 島南方のフランス領の二つの小島；漁業根拠地；人口4,300人、面積242km²、首都 St. Pierre、②米領ヴァージン諸島(Virgin Islands of the United States)西部を占める部分で米国がデンマークから買収(1917)；人口63,000人、面積344km²、首都 Charlotte Amalie；バージン諸島は、West Indies 諸島中 Puerto Rico の東方に連なる小群島、米領と英領(British Virgin Islands)に分かれる。】

♡ 「幼児用の絵本」はこの数年、前年比で順調に伸びてきたが、6年ぶりに2008年度は前年比で約13%の減少、2009年度は前年比28%の減少と低迷が続いた。中国からの輸入は依然トップで全体の83%を占め、次点の米国が5%、3位がタイの4%弱、以下香港3%、マレーシア1.4%、英国1%と続いた。中国は正に発展の一途を辿っている。

♡ 「雑誌・新聞」については、“1週に4回以上発行するもの”は香港87%、米国13%の2カ国からのみであった。“その他のもの(雑誌類)”は31カ国から輸入されたが、これも3年連続の減少；これは米国からの輸入がトップで全体の43%を占めた。英国からは31%、オランダが12%弱であった。香港経由も1%を割り込んで0.77%であった。電子化の波がますます紙媒体を圧迫しているようである。

♡ “楽譜、地図・海図、地球儀”の輸入も2年連続の減少となった。2007年まで5年連続で前年を上回り、昨年は、「統計が示すところではマーケットは健全である。」と報告したが、やはり不況の煽りは免れないのだろう。不況の中でも売れ筋のひとつと見られた商品だが!!

(表1-b) 品目別輸入量(総重量と総冊数)

品目	輸入された「1Kg 当たりの平均冊数」					
	'08 総冊数	'08 総重量 (Kg)	平均冊数 (Kg)	'09 総冊数	'09 総重量 (Kg)	平均冊数 (Kg)
(書籍)						
単一シートのもの	～	229,076	～	～	189,404	～
辞典及び事典	178,257	141,289	1.3	84,919	67,541	1.3
書籍など	～	8,305,513	～	～	8,253,281	～
幼児用の絵本及び習字本	16,663,504	3,959,907	4.2	13,506,072	3,091,941	4.4
小計1(辞典・絵本)	16,841,761	4,101,196	4.1	13,590,991	3,159,482	4.3
(新聞・雑誌)						
一週に4回以上 発行するもの	657,203	49,364	13.3	43,815	2,900	15.1
新聞・雑誌その 他の定期刊行物	14,294,128	3,839,888	3.7	13,152,409	3,376,435	3.9
小計2	14,951,331	3,889,252	3.8	16,196,224	3,379,335	3.9
合計(1+2)	31,793,092	7,990,448	4.0	26,787,215	6,538,817	4.1

♥ 「財務省貿易統計」から「品別国別表」のプリントアウトを見ると、左のコラム、統計の第1行目が(品目コード)合計、第2コラムと第3コラムがそれぞれ「第1数量《NO》」と「第2数量《KG》」で、数値の発表がある行にのみ NO または KG と記載がある。前者は冊数で、後者は重量である。毎回これらを前年度との対照表にまとめているが、大きな百科事典や軽量のペーパーバックなどが大量に輸入されない限り、書籍・雑誌ともに概ねサイズに大きな変化が現れないことが読み取れる。

♡ 「単一シート」は《KG》のみである。「書籍」についても《KG》のみで《NO》が発表されたことはない。

♡ 「辞典及び事典」は、2001年に2.8冊/Kg.を記録した時以来、平均1.2から1.5冊で推移しているの、毎年ほぼ同様の体裁のものが輸入されていると考えられる。因に、1冊が"Webster's Third New International Dictionary"は約5.9kg、"Merriam-Webster's Collegiate Dictionary"と"Collins COBUILD English Dictionary"はそれぞれ約1.7kg、"The American Heritage Dictionary"は440g、"Handbook of Commonly Used American Idioms"は160g(*は何れもペーパーバック)。★5.9kgの「辞書」を抱えて何時間もdateに打ち込んだ青春のひととき、懐かしき日の思い出。★

♡ 「幼児用の絵本」は、幼稚園児を思えば1冊当たり200g～250gが最適であろう。

♡ 「一週に4回以上発行するもの」および「新聞・雑誌」もサイズ的には変化なしであった。

(表1-c) 品目別輸入量(総冊数と平均単価)

品目	輸入された「総冊数と平均単価」					
	'08 総冊数	'09 総冊数	前年比	'08 年 平均単価	'09 年 平均単価	前年比
(書籍)						
単一シートのもの	～	～	～	～	～	～
辞典および事典	178,257	84,919	48%	¥1,004	¥871	87%
書籍など	～	～	～	～	～	～
幼児用の絵本及び習字本	16,663,504	13,506,072	81%	¥233	¥207	89%
小計	16,841,761	13,590,991	81%	¥279	¥346	124%
(新聞・雑誌)						
一週に4回以上 発行するもの	657,203	43,815	7%	¥138	¥137	99%
新聞・雑誌その 他の定期刊行物	14,294,128	13,152,409	92%	¥924	¥833	90%
小計	14,951,331	13,196,224	88%	¥890	¥831	93%
合計	31,793,092	26,787,215	84%	¥659	¥782	119%

註:「単一シート」、「書籍」は冊数の統計が発表されていない。

♥ 各品目の輸入額前年比に対して、冊数及び平均単価の前年

比から、当該報告年の商品の变化を多少なりとも把握していただくための対照表である。

♡ 「辞典及び事典」については、輸入額の前年比に対しては冊数の比率が高く、単価が低い商品であったことが推測できる。また、冊数 vs. 重量から見て、円高が単価を押し下げているのであろう。

♡ 「幼児用絵本」も同様に円高の影響が作用していると思われるが、中国からの輸入が82.6%と大半を占めていること、平均単価が¥207/冊であり全体像にそのまま反影している状況である。米国は次点、5%で平均単価は¥444/冊、タイが3位で平均単価が¥420/冊であるが、全体像への影響は最小である。全体の平均単価は一時¥269/冊にまで高騰したが、2005年に中国からの輸入が急増、平均単価は¥128にまで下がった。2008年になって中国商品の平均単価が¥231/冊に戻し、中国の経済発展によるものと考えられた。上記のとおり2009年は¥207/冊に戻っており、全体像そのものとなっている。

♡ 「一週に4回以上発行するもの」は部数が大きく減少したが、単価などはほぼ平均値で推移している。

♡ 「新聞・雑誌、その他の定期刊行物」の平均単価を見ると、昨年の想定に反して輸入部数が20万部以下の2008年～2009年は1部¥1,000以下を示して、2年連続の円高などが影響しているようである。

2. 10年間の輸入統計の推移

(表2-a) 10年間の輸入通関額の推移									(単位 百万円)		
品目	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞その他の定期刊行物			合計				
	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数	輸入額	前年比	指数		
2000	33,190	94%	100	16,542	92%	100	49,732	94%	100		
2001	39,244	118%	118	19,125	116%	116	58,369	117%	117		
2002	41,243	105%	124	15,892	83%	96	57,135	98%	115		
2003	40,585	98%	122	16,756	105%	101	57,341	100%	115		
2004	37,086	91%	112	14,575	87%	88	51,661	90%	104		
2005	34,767	94%	105	15,353	105%	93	50,120	97%	101		
2006	35,660	103%	107	16,259	106%	98	51,919	104%	104		
2007	35,080	98%	106	15,824	97%	96	50,904	98%	102		
2008	31,229	89%	94	13,300	84%	80	44,529	87%	90		
2009	26,013	83%	78	10,962	82%	66	36,975	83%	74		

♥ 「書籍類」および「雑誌・新聞その他の定期刊行物」輸入額「絶対値」の推移である。《指数》は2000年を(100)とした。近年は、学術情報の流通も経済状況に直撃される部分が大いよう、2009年は過去10年の中で最も低い水準に落ち込んでいる。

(表2-b) 10年間の品目別推移 (単位: 百万円)								
品目	単一シート		辞典		書籍		絵本	
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
2000	116	96%	225	66%	30,282	107%	2,567	108%
2001	271	234%	283	126%	36,255	120%	2,435	95%
2002	132	49%	333	118%	37,636	104%	3,142	129%
2003	212	161%	292	88%	36,673	97%	3,401	108%
2004	284	134%	316	95%	32,730	89%	3,756	110%
2005	337	119%	241	76%	30,111	92%	4,078	109%
2006	173	51%	154	64%	30,787	102%	4,546	111%
2007	307	177%	128	83%	29,580	96%	5,066	111%
2008	242	79%	179	140%	26,927	91%	3,881	77%
2009	221	91%	74	41%	22,920	85%	2,798	72%

♥ (表2-a)を、細別品目で捉えた一覧表である。今回は、現在までの数値を「財務省ホームページ」による検索データと照合してみると、特に、「書籍」の数値が多少修正されていたこと

が判明した。例年、2月末以前に《速報 (Provisional)》のデータを入手して、会報3月号に「前編」を掲載するように準備したため、(Final)で訂正が入ったのであろう。★誤差は些少、「書籍」のみなので、当該報告のデータの遡及的修正は行わないことをご了承いただきたい。★

♥ 「単一シート」は、経験的に「幼児用絵本」や「アート・ブック」がシートの形で輸入されることがあり、年ごとにアップ・アンド・ダウンがある。2009年は、アメリカがトップで39%、ドイツが次点で22.5%、中国から20%であった。

♡ 「辞典」(辞典及び事典)は、中国から45%、英国から17.6%、米国から16.8%などであるが、いずれも量的には大幅減少であった。まず、前年比でみると、中国からの輸入額は47%と半分以下、英国が29%と1/3以下、一方、米国は92%、シンガポールは68%、ロシアは63%でこの三者はまずまず、しかし、タイは8%弱で、フランスはゼロであった。激減の原因はいまのところ明らかでない。

♡ 「書籍」は3年連続で減少が続いた。ひとつには円高も影響していると考えている。アメリカから38%、英国から29%で、2ヶ国の合計が67%と前年と同率であった。以下は中国から10%、ドイツから約7%と昨年同様、フランスからは3.4%で若干少なかった。韓国から2.7%であった。

♡ 「絵本」(幼児用の絵本)は21ヶ国からの輸入があったが、残念ながら2007年に吹いた上昇気流は現れず、2年連続の減少となった。中国からダントツで約83%と前年と同率であったが、輸入量は前年比で28%減少となった。アメリカから5%、タイは3.7%と前年比を倍増、マレーシア3.6%、香港3%、シンガポールは1%で半減以下、英国1%、その他の国々は1%以下の輸入であった。

(表2-b続き)10年間の品目別推移 (単位: 百万円)

品目	雑誌・新聞		楽譜・地図		合計	
	輸入額	前年比	輸入額	前年比	輸入額	前年比
2000	16,542	92%	1,153	90%	50,885	101%
2001	19,125	116%	1,451	126%	59,820	118%
2002	15,892	83%	1,414	97%	58,549	98%
2003	16,756	105%	1,575	111%	58,909	101%
2004	14,575	87%	1,621	103%	53,282	90%
2005	15,353	105%	1,706	105%	51,826	97%
2006	16,259	106%	1,755	103%	53,674	104%
2007	15,824	97%	2,147	122%	53,052	99%
2008	13,300	84%	1,867	87%	46,396	87%
2009	10,962	82%	1,520	81%	38,495	83%

♡ 「雑誌・新聞」は、2007年まで低水準ながら安定していたが、ここ2年連続でかなりの減少傾向である。昨年の報告の中でも考えたが、電子ジャーナルの普及、2年連続の円高などマイナス・ファクターの影響も大きいと思われる。繰り返しになるが、新しい経営政策へチャレンジの時代である。

♡ 「楽譜・地図」:「楽譜」は15ヶ国から輸入され、流石にドイツがトップで45%、次が米国の32%と前年度とほぼ同率、英国は6%であった。「地図」に含まれるものは、「地球儀・地球儀、製本した地図・海図などと、その他のもの」である。2009年度の輸入統計は、楽譜:地球儀など:製本した地図など:その他の地図・地形図など4品目の比率が31:35:3:31であった。2007年にジャンプして2億円台に入ったので、2009年はいくらかの減少である。「地球儀・天体儀」は9ヶ国から輸入され、中国がトップで46%と前年度の約1.4倍であった。台湾からは21.3%、インドネシアから21.2%とそれぞれ前年度を若干下回った。次が韓国4%、イタリアが4%弱、米国2%強、とアジア圏

からの輸入が大半であった。「地図、製本したもの」は10ヶ国からで、米国から30%強、英国から24%であった。「その他のもの」には、壁掛け用のものなどが含まれると思われるが、70%が英国からの輸入である。しかし、英国のシェアは前年度より9%下回り、米国は13.5%で前年度より4.5%上回った。シンガポールから4%強、オーストラリア3%強、などとなっている。

♡ 「合計」は、以上のとおり、上記の品目群について2009年は全面安の展開となった。

3. 主要10ヶ国からの2009年輸入統計

(表3-a)2009年主要10ヶ国からの輸入統計 (単位: 百万円)

品目	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞その他の定期刊行物			計		
	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比
米	8,952	81%	34%	4,711	86%	43%	13,663	82%	37%
英	6,732	92%	26%	3,413	84%	31%	10,145	89%	27%
中国	4,762	80%	18%	73	53%	1%	4,835	79%	13%
独	1,630	87%	6%	301	51%	3%	1,931	79%	5%
オランダ	174	59%	1%	1,285	90%	12%	1,459	85%	4%
仏	784	65%	3%	207	99%	2%	991	70%	3%
シンガポール	615	84%	2%	356	95%	3%	971	88%	3%
韓国	644	111%	2%	233	88%	2%	877	181%	2%
タイ	417	143%	2%	12	52%	0%	429	147%	1%
香港	285	92%	1%	90	51%	1%	375	45%	1%
小計	24,995	84%	96%	10,681	83%	97%	35,676	84%	96%
その他の国	1,018	63%	4%	281	76%	3%	1,299	66%	4%
計	26,013	83%	100%	10,962	82%	100%	36,975	83%	100%

♥ 「書籍」プラス「絵本」と「雑誌」の合計額で見る主要10ヶ国である。ブラジルが10位の座をタイに明け渡した。タイは9位へと6年ぶりの10傑入りである。順位については韓国が9位から8位へ、香港が8位から10位へと入れ替った。輸入額は「書籍・事典・絵本」が前年比で16%、「雑誌・新聞」が17%とそれぞれ減少であった。合計額では16%の減少である。

(表3-b)主要輸入元別輸入対照表 (単位: 1,000百万円)

品名	米	英	EURO圏	東アジア	東南アジア	その他の国	合計
書籍類	9.0	6.7	2.9	5.8	1.2	0.4	26.0
雑誌類	4.7	3.4	1.9	0.4	0.4	0.2	11
合計	13.7	10.1	4.8	6.2	1.6	0.6	37.0
前年比	82%	89%	77%	81%	100%	67%	83%
'09構成比	37%	27%	13%	17%	4%	2%	100%
'08実績	16.7	11.4	6.2	7.7	1.6	0.9	44.5
'08構成比	38%	26%	14%	17%	4%	2%	100%

註1: "EURO圏"は参加国16ヶ国の合計。

註2: "東アジア"は中国、香港、台湾、韓国4ヶ国の合計。

註3: "東南アジア"南アジアも含め、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、カンボジア、及びインド、パキスタン、ネパールの10ヶ国の合計。

♥ 輸入額を、米国、英国、EURO圏(16ヶ国)、東アジア(4ヶ国)、東南アジア(南アジアを含む10ヶ国)、その他の国々と6地域に分けてまとめ、その構成比から地域毎の重要度を考えた。米国が1%下がり、英国が2年連続で1%上げた。EURO圏以下は前年度と同率であった。

♡ EURO圏は2007年にスロヴェニア、2008年にキプロス、2009年にスロヴァキアが加入し16ヶ国になった。情報によれば『ユーロ硬貨はヨーロッパの22ヶ国で使用され、16ヶ国のほかに、合意によって認められている3ヶ国がそれぞれ製造しており、裏面に各国で独自のデザインを採用している。』とのことである。導入義務免除はデンマーク、イギリスで、事実上の「不参加権」だそうである。加入国以外でユーロを使用する国々は、例えば、ヴァチカン市国(ローマ教皇庁)、サン・マリノ共和国、モナコ、アンドーラ公国、モンテネグロ、コソボなどである。

ロンドン・ブックフェア 2010

今年 39 回目を迎えたロンドン国際ブックフェア、4 月 19 日～21 日 3 日間に渡って開催決行されましたが、フェア直前の 14 日のアイスランド南部エイヤフィヤトラヨークトル氷河の火山噴火直後より、欧州北部に広がった火山灰の飛行機エンジン故障等による事故を回避する為、各国の航空当局が相次いで飛行禁止措置を発令し、20 日夜 10 時まで全英空港が閉鎖されました。欧州全域の空の便が混乱、日本からの便も噴火当日便は引き返し、以降は欠航、フェア開始まで全く渡航見通しがつかない中残念ながら参加を断念された方も多くいらっしゃったと思いますが、欧州大陸からもほぼ同様の状況で、ユーロスターは一時 5 倍まで値段が跳ね上がって、臨時便を出してもブックフェア以降の週末まで予約が入らない状況、レンタカーも空車無し、フランスから一部船が出る等、英国が島国であることを、飛行機が無くなって初めて実感した一件でした。フェア参加を予定していた著者・業者のみならず、今年は記録的な 1,672 社が予定されていた出展者の半数以上の実に約 900 社は英国外からの出展者でした。ほとんど根性で車で駆けつけた業者、たまたま日

程の組み合わせで前週から英国入りしていたごく一部の業者を除いて、ほぼ本もディスプレイも何も搬入できないまま、写真のようにがらんとしたブースが目立ちました。米国出版社も含めて面談アポはキャンセルが目立ち、英国出版社でも海外販売担当者は出張中国外で足止めを食らっていたり、最終日はほぼあきらめて店じまいという状況。eBook の売上に占める一般的な比率も 5 % に上り、デジタルに再フォーカスが当てられましたが、セミナーも発表者欠場、中止、座談会となるケースが目立ちました。訪問者もかなり少なかった様に感じましたが、2009 年度は 100 カ国以上から訪問者数約 23,000 人であったのに対して、フェア側は例年の 70 % は何とか訪問した、と主張していますが、訪問者数の詳細を示しておらず、天災で致し方ないのは確かなのですが、今年の出展者へのリファンドは一切行わず、来年出展には 30 % 割引を約束しています。2011 年は、(今年もそうだったら良かったのですが) 4 月 11 日～13 日の開催予定、40 周年となり挽回に力が入りそうです。

丸善ロンドン 瀨野 智弘



：：： 教育学の必須レファレンスが約15年ぶりに改版！ ：：：

教育の国際百科事典

第3版 全8巻



International Encyclopedia of Education

3rd edition

Edited by **Eva Baker**, *Center for the Study of Evaluation, UCLA, USA*
Barry McGaw, *Education Directorate, OECD, Paris, France* and
Penelope Peterson, *School of Education and Social Policy, Northwestern University, USA*

2010年6月刊行予定. 8,400 p., 8 Vols., Hard. / ISBN 978-0-08-044893-0
予約価 (2010年8月15日受付分迄) USD4,285.00 / 通常価 ¥555,891 / 特価 **¥472,500** [税込]
(上記以降) USD5,365.00 / 通常価 ¥695,999 / 特価 **¥592,888** [税込]

近年、教育という分野は技術的・社会的・制度的側面において大きな変化を経験しており、社会科学の中でも最も魅力的で、なおかつ複雑な研究領域となりつつあります。

“International Encyclopedia of Education”の第三版となる本書は、同分野の重要文献を包括的にカバーしており、好評を博した初版（1985年）や第二版（1994年）同様、活気に満ちた教育分野の研究を整理して読者に提示しています。5年の歳月をかけて刊行の準備が進められている本書は、24の個別の領域にわたって、1,000を超える記事を収録しており、同分野の重要レファレンスとなることが期待されています。

教育は、社会科学や人文科学のさまざまな領域を横断する、学際的で国際的な研究領域であり、本書はそのような教育の多様な側面を包括的にカバーした内容となっています。編者は、さまざまな背景をもつ学際的な研究者陣によって構成されており、100以上の国からおよそ1,500人の寄稿者の記事を整理して収録しています。客観性を維持しつつバランスの取れた学術的なフレームワークを提供しており、教育という発展しつつある分野についてその全体像を概観できるようになっています。

国際的に著名な専門家・研究者によって執筆されています。

技術と学習、人口統計学と社会的変化、グローバリゼーション、成人学習のような、タイムリーなトピックを含むおよそ1,350の記事を収録しています。

Elsevier, NLD / 日本総代理店：丸善

上記の商品に関するお問い合わせは

M MARUZEN

丸善株式会社 教育・学術事業本部 学術情報ソリューション事業部 商品センター

〒140-0002 東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川

TEL:03-6367-6079 FAX:03-6367-6184 e-mail: irneisui3@maruzen.co.jp



グレイの細胞病理診断学 第3版

Diagnostic Cytopathology, 3rd Edition

By Winifred Gray and Gabrijela Kocjan

細胞病理学診断の定番テキスト「グレイ」の最新版。さまざまな病変診断上の細胞学的特徴だけでなく、陥りやすい誤診や判断の微妙なグレーゾーンも重視しています。昨今の急速な展開に鑑みて、近年の技術的発達、および、小児癌の細胞診に関する新たな章が設けられ、また、チームのコア・メンバーとして細胞病理学者を含む、分野横断的なチーム・ミーティング（意見交換）の重要性に関する特別の項目も、各章の末尾に含まれています。

Publisher: Elsevier / Churchill Livingstone May 2010

991 pages Hardback 978-0-7020-3154-0 ¥39,900.- (本体 ¥38,000.-)

This edition stresses not just the diagnostic cytological features of the various conditions encountered, but also the diagnostic pitfalls and the grey areas between so as to enable the reader to give more evidence-based reports. In recognition of their rapid expansion, there are new chapters on recent technological developments and on the cytodiagnosis of childhood tumours. A special section on the importance of multidisciplinary team meetings that include the cytopathologist as a core member of the team has also been included at the end of each chapter. As active members of this team, cytopathologists can define their role in the management pathway and thus bring the patient and the microscope together as never before. The full text can be accessed online and images downloaded via Expert Consult.

Table of contents

Cytopathology: The history, the present and the future direction
Respiratory tract: normal, reactive and inflammatory changes
Serous Effusions: Reactive and malignant
Breast: Normal, inflammatory and reactive conditions
Salivary glands
Oral cavity
Oesophagus and gastrointestinal tract
Liver
Gall bladder and biliary system
Pancreas
The kidney and retroperitoneal tissues
Urinary tract
Lymph nodes
Other lymphoreticular organs
Organ Transplantation
Immunosuppression
Thyroid Gland
Other endocrine organs
Prostate: benign and malignant
Testis and scrotum. Male infertility
Vulva, vagina and cervix: normal cytology, hormonal and inflammatory conditions
Cervical Screening Programmes
Cervical intraepithelial neoplasia and squamous cell carcinoma of the cervix
Glandular neoplasia of cervix

Other tumors and tumour-like conditions of cervix, vulva and vagina
Cytology of the body of the uterus
Ovaries, fallopian tubes and associated lesions
Retroperitoneum
Skin
Soft tissue and musculoskeletal system
The cytology of synovial fluid
Cerebrospinal fluid and brain smears
The Eyelids, Orbit and Eye
Childhood tumours
New techniques

好評発売中！



United Publishers Services Limited

140-0002

東京都品川区東品川 1-3-2-5 Tel: 03-5479-7258 / FAX: 03-5479-7307